

北海道教育大学函館校

第3号

江差ソーシャルクリニック ニュース

続コロナ時代の SC 活動


 国立大学法人
北海道教育大学
 HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

平素より江差ソーシャルクリニック(江差SC)の活動に対するご理解とご協力をありがとうございます。江差SCは、大学と町民の皆様が一緒になって地域課題を解決していこうという取り組みです。

新型コロナウイルス感染症の収束は見通せず、今年度も江差SCの活動は大きな制約を受けています。そんな中でも、皆様のご協力のおかげで、一部の活動を実施しております。心より厚く御礼申し上げます。今号では2021年度上半期の活動についてお知らせします。引き続き、江差SCの活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

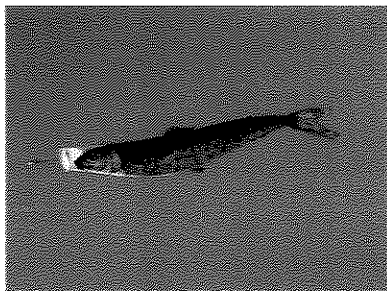
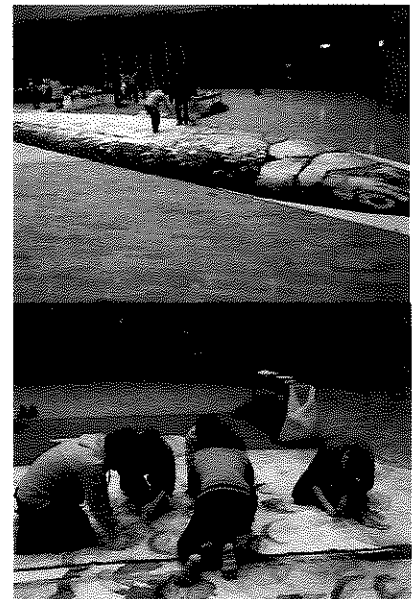
北海道教育大学函館校 地域協働推進センター センター長 齋藤 征人
 江差SCプロジェクトチーム 代表 古地 順一郎

5月の江差の巨大ニシンのぼりが泳ぐ下で、 子どもと語りたい「ニシンの繁栄が息づく町の明日を」！ 担当：橋本 忠和

2017年6月から「江差町日本遺産プロモーションフラグシップ制作」のお手伝いをしてきました。

このプロジェクトでは、2017年4月28日に江差町が北海道で初めて日本遺産に認定された際に評価された、『江差の五月は江戸にもないニシンの繁栄が息づく町』という素晴らしいストーリーを持つ江差町の魅力を余すことなく全国に発信することを目的としています。「人との繋がり」と「話題性」を基本コンセプトにしました。多くの「インパクト」と「サプライズ」を演出するとともに、人の手が生み出す素材(布)の上で手作りの温かみを伝え合い、「多くの人と人が繋がるように、結びつく」¹⁾ことができるよう、高層ビル8階建てに相当する25mもの巨大なニシンのぼりが制作されました。

ニシンのぼりは大きいだけではありません。そのおなかには、乳児から大人までの手形と、自分と江差町の未来へのメッセージがかかれています。この数多くの町民のみなさんの手が、願いが、巨大なニシンを空へと押し上げるようになっていきます。



2018年の5月から、掲揚が行われていますが、2020年は全面中止となりました。しかし、2021年は、江差町や町民有志の熱意により、平日3日間という限られた期間ではありましたが、コロナ禍の中でも巨大ニシンは堂々と空を泳ぎました。その姿は、江差の町に感動と勇気を与えてくれたことと思います。

ぜひ、来年はじっくりと、悠々と泳ぐ、ニシンの下で、「あのおなかにはね。私の手形と・・・」という会話で、子ども達と未来の自分の姿と、「ニシンの繁栄が息づく町の明日の姿」を語り合いたいと思っています。

注 1) 江差町業務委託の株式会社サインランド作成、「『江差の五月は江戸にもない』フラグシップ制作企画書」を参照。

「第2回ニシンチャレンジカップ」の準備を進めています！ 担当：古地 順一郎

北海道教育大学函館校 地域政策学研究室 3年 豊田 達也

ニシンチャレンジカップは、名前の通り、ニシンを題材にしたイベントです。役場や、町民の方々、北海道教育大学函館校の学生で実行委員会をつくり、ともにこのイベントの実施に取り組んでいます。

「江差の五月は江戸にもない」といわれるように、かつて江差はニシン漁によって繁栄しました。この歴史は、文化庁の「日本遺産」に認定されています。私たちは、この江差とニシンの縁に目をつけました。ニシンを通して、江差の魅力を全世界に発信し、江差に「富の群来」をもたらすことが、このイベントの目的です。ニシンは食用だけでなく、鯨粕のように肥料としても役立つなど様々な能力を持った魚です。海外の都市でも、ニシン漁やニシンの交易で発展した例がいくつかあります。その中でも江差は、まだまだニシンという魚の能力を引き出せるのではないのでしょうか。ニシンチャレンジカップでは、「料理」、「アート」、「スポーツ」という3つのテーマでイベントを開催し、ニシンの新しい可能性を町民の方とともに見つけたいと考えています。

ニシンチャレンジカップは、2021年11月13日(土)と2022年2月のいずれかの週末に開催を予定しています。11月は、法華寺通り商店街を舞台に、ニシンを用いた「創作料理コンテスト」や、自分の描いた絵がスクリーン上を泳ぐという「デジタル水族館」を開催します。また、商店街を装飾し、まるで海の中のような空間をつくります。2月は、場所は未定ですが、ニシンを題材にしたスポーツ大会を開催します。

私はこのイベントに関わっていて、とてもワクワクします。江差に新しいニシン伝説が生まれる気がするからです。受け入れて下さっている江差の方々に感謝し、これからもこのイベントに取り組みます。ニシンチャレンジカップ、ぜひお越しください。お待ちしております！

まちづくりカフェ参加生徒アンケートを実施！ 担当：齋藤 征人

今年で開始から6年目になる「まちづくりカフェ」。過去にまちカフェに参加したことのある中学校・高校の生徒数はのべ150名以上になります。そこでこの7月、まちカフェを「卒業」して、現在は高校生として、社会人として活躍中の若者たちにアンケートを実施。まちカフェをきっかけに自分自身に起きた変化や、現在に活着していると思うことを聞きました。今回はその一例をご紹介します。

●19歳・女性(現在、大学1年生)は、生徒会執行部として地域のつながりを大切にしたいとまちカフェに参加。参加してみて「学生であるうちから、地域とのつながりを大切に、自分の地元と向き合うことができてよかった。都会とは違う小さな町だからこそできる経験だった」と感じていました。

●20歳・女性(現在、大学3年生)は、高校卒業後の進路決定のヒントにとまちカフェに参加。参加後の自分自身の変化として「まちづくりカフェでの活動を通じて、自分でも町をよりよくするための活動ができるという自信につながった」と感じていました。

●22歳・女性(現在、公務員)は、履歴書に書ける項目を増やしたいとまちカフェに参加。参加後の自分自身の変化として「自分の中の当たり前が当たり前だと思わないで、周りの気持ちも今まで以上に考えるようになった」と感じていました。

学校とは異なる現場、刻々と変化し続ける地域での活動体験は、それまでとは異なる観点や問題意識を育みます。まちカフェを通じた地域の課題や地域の人びとに向き合った経験は、自分たちのまちの誇りを再発見するとともに、自分にも地域の課題を解決できるということを学ぶ貴重な機会になったようです。他にもたくさんの回答がありましたが、そのすべてをご紹介できず残念です。ご協力いただいたみなさんの声から、まちカフェの意義をあらためて再確認できました。有難うございました。

**発行**

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター 江差 SC プロジェクトチーム (代表 古地順一郎)

〒040-8567 北海道函館市八幡町1番2号 電話：0138-44-4354 (古地研究室) E-MAIL: koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp

※ご意見・ご質問は上記のE-MAILへお寄せください。